

回										
覧										

令和 6 年（2024 年）11 月 1 日発行

臨時 19 号

加古川市人権文化センターだより

発行：加古川市人権文化センター

住所：加古川市加古川町備後

332-1

電話：079-451-5030



車椅子で、東京へ



人権アドバイザー 松浦 剛

所用で東京に出かけました。家人に車椅子が必要なため、電車の乗降が心配でした。

姫路の新幹線の案内係に電話で、列車名と車両番号と座席番号を伝え介助を依頼しました。「東京には〇時〇分に着く予定です。で、姫路には何で来られますか？」と尋ねてくれました。在来線での乗車時間を伝えると「姫路には◎時◎分に着きます。乗車駅と姫路駅には職員を配置し、新幹線の改札口まで案内いたします。」との回答でした。

翌日の復路は出発駅の窓口で同じ依頼をしました。驚いたのは、東京駅での在来線から新幹線への乗り換え時の対応でした。新幹線改札口までの通路は長く入りくみ、既存の路線が多く乗り入れているため、人の数は半端ではありません。駅員の方は、先頭に立って人の波をかき分けるように改札口まで案内してくれました。この誘導がなければ、車椅子を押しての通行では、土地勘がないため表示板は理解できず、人ごみに圧倒されて構内で立ち往生していたかもしれません。

車椅子でしか移動できなくても、支えてくれる人や設備そして支援のシステムがあれば、障がいはハンディにはならないことを実感しました。

『障がいは人にあるのではなく、社会にある』といわれます。社会的不利を個人だけの問題としないために、公的支援に加えて私たち一人ひとりの意識の持ち方も考える必要があるように思いました。



おしらせ



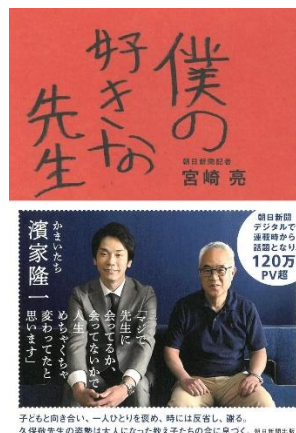
●図書購入のお知らせ

人権に関する本を購入しました。貸出もできますので、図書コーナーにぜひお立ち寄りください。

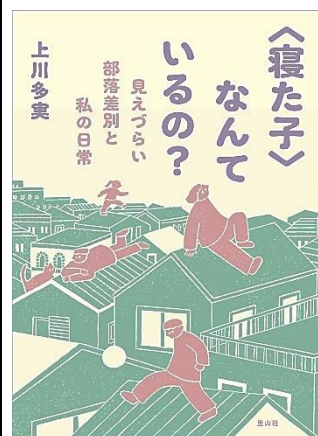
(※貸出について 期間：2週間以内、冊数制限はありません。)



書籍名：ふわふわとちくちく
監修：斎藤 孝
絵：川原 端丸
出版社：日本図書センター
出版年：2023年
■あなたはどっちを使っている？相手の心が元気になったり、楽しくなったりする「ふわふわことば」。相手の心が痛くなったり、せつなくなったりする「ちくちくことば」。ことばを選ぶ力が身につく絵本。



書籍名：僕の好きな先生
著者名：宮崎 亮
出版社：朝日新聞出版
出版年：2023年
■「やんちゃだった僕を初めて認めてくれた」。かまいたち・濱家さんがそう話すのは、小学校時代の恩師である久保敬先生のこと。定年を迎えた久保先生と、大人になったかつての教え子を訪ね、「先生」の在り方を探る。



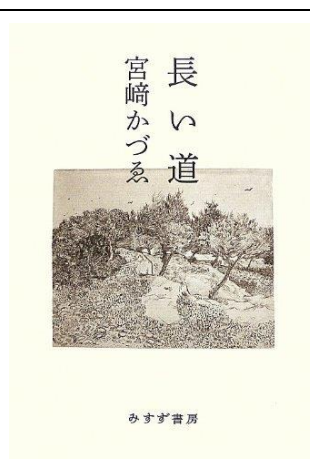
書籍名：〈寝た子〉なんているの？見えづらい部落差別と私の日常
著者名：上川 多実
出版社：里山社
出版年：2024年
■日常の中で見えづらい差別は当事者をどう惑わせ苦しめるのか。日本社会の様々なマイクロアグレッションに気付かされる、まったく新しい痛快自伝。



書籍名：まいまいつぶろ 御庭番耳目抄
著者名：村木 嵐
出版社：幻冬舎
出版年：2024年
■青名半四郎。又の名を、万里。徳川吉宗・家重の將軍二代に仕えたお庭番は、江戸城の深奥で、何を見、何を聞いたのか？隠密秘話に胸熱くなる「まいまいつぶろ」完結編。



書籍名：無敵の老後
著者名：勢古 浩爾
出版社：大和書房
出版年：2023年
■惑わず、迷わず老後を生きるための必携書。スカッと笑えてじんわり沁み入る、75歳からの「無敵の」人生論！



書籍名：長い道
著名：宮崎 かづゑ
出版社：みすず書房
出版年：2012年
■10歳で故郷の村を離れ国立ハンセン病療養所・長嶋愛生園に入所した著者が80歳を超えて、綴り、語り始めた自らの記憶。

他、68冊を新規購入しました。詳しくは人権文化センターのホームページをご覧ください。

<https://www.city.kakogawa.lg.jp/soshikikarasagasu/shiminbu/jinkensesakusuishinka/1479348544779.html>

